

## 1. 総評

**(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】****【学校の現状】**

学校全体が落ち着いた雰囲気の中で、教育活動が展開されている。純朴で明るく素直な児童が多く、健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対しては、管理職の指導のもと全職員が共通理解を図り、適切に対応していくことができている。学校に対する保護者の期待は大きく、PTAや地域も協力的である。外国籍や一人親家庭等、家庭環境や養育状況に課題を抱える児童も少なくないが、教職員は、担任学級の児童と同様に全校児童へ積極的に関わり熱意をもって教育活動にあたっている。校内外の様々な研修会を通して若手教員、ベテラン教員がともに授業力・指導力を高め合う中で、組織的に課題解決に取り組む体勢が完成しつつある。

**【前年度の成果と課題】**

## 1 知・徳・体の調和のとれた児童の育成

国語77.0%、算数77.2%、全体77.1%の通過率で、それぞれ昨年度に比べ、9.7、11.0、10.4ポイント上昇した。しかし、各学年とも読解力を中心に国語力を高める必要性を感じているので、S-P表や学力ポートフォリオの作成・分析、3、4年生のそだち指導等も活用し、一人一人の児童の課題や伸びを正確に把握し、日々の授業に加え放課後や長期休業中の補習学習で理解が不十分な個所を重点的に指導し、学校全体として基礎学力の定着を図った。すべての児童の言語能力向上を目標に、授業以外でも日常的な読書活動や群読などの取組を行い、児童の「話す」「聞く」力の育成を図った。また、校内授業研究会では、足立スタンダードの内容の徹底を目指し、特に児童によくわかる板書やノート指導について、管理職や区教科指導専門員による週一回以上の授業観察、OJTを通し確実に身に付けさせ、授業で活用できるようにした。日常の授業でつまづきがちな3、4年生の児童を対象に区そだち指導員による個別指導を実施し、各児童の学習意欲を高めることができた。

## 2 若手教員の育成

管理職・ベテラン教員に加え、区教科指導専門員の指導も仰ぎ、特に国語の言語事項についての指導力を高めることを念頭に置き、若手教員の育成を図っている。足立スタンダードの内容を正しく把握し、児童の学力向上に直結する授業力(板書、ノート指導)を確実に身に付けさせていく。

## 3 開かれた学校づくり

出張授業や外部人材の活用は1～3年20回、4年10回、5年14回、6年9回実施した。1・2年は放課後子ども教室指導者、保護者を中心に、3年以上は地域を含む民間や外部の人材を活用した授業や行事を意図的・計画的に実施した。各学年ともキャリア教育の視点を根底に据え指導に取り組んできた。

**(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要****重点的な取組事項－1 学力向上(基礎的・基本的な学習内容の定着)**

- 文章を書く力、文章を読み取る力、計算力、文章問題を解く力の育成
  - ・朝、昼学習、授業、放課後教室、サマースクール等の効果的な運用
- 教師の授業改善、授業力の向上
  - ・足立スタンダードに示された板書や授業の流れ、ノート指導の徹底を図り、管理職、学力向上担当、学年主任等による授業観察に加え、区教科指導専門員による定期的授業観察、研究授業、若手教員による授業研究(一人年間20回)を通し一人一人の教員の授業力を向上させる。
- 言語能力向上を中心とした学力向上への取組
  - ・国語科の学習以外でも児童自らがより主体的に言語活動を行う機会を設定し、特に文章の読解力の向上を図る。

**重点的な取組事項－2 心と体の充実・発展と自己肯定感の育成**

- ・ハイパーQ U等の調査を活用し、必要な児童に対してSCによる面接を実施。
- ・毎月の人権目標をもとに思い遣りの心を育てる教育を進めるとともに、校内外におけるあいさつ運動を推進する。
- ・言語環境の整備に努めるとともに、読書環境を充実させ読書目標値を示して読書を奨励する。

**重点的な取組事項－3 小中連携の推進**

- 伝え合う力、コミュニケーション能力の向上を目指し、体育科の研究授業を公開する。連携校だけでなく、幼保にも参観を呼びかけ成果を発信していく。
- 各教科主任による模範授業と若手教員授業を公開、校務支援システムを活用し、事前に指導案を配信・検討・参観・協議を行う。
- 小中連携校の公開研究授業・協議会に全教員が参加、連携の成果と課題を共有化、自校での取組の見直しと推進を図る。
- ・連携校教員間の交流の充実を目指し、連携中学校との授業研究会・協議会を3回ずつ両校で実施。

### (3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項－1 学力向上（基礎的・基本的な学習内容の定着）

- 国語77.0%、算数77.2%、全体77.1%の通過率で、それぞれ昨年度に比べ、9.7、11.0、10.4ポイント上昇した。区学力調査の結果をもとにしたS-P表の分析や、単元テストの結果を学力ポートフォリオにまとめ各学級や児童一人一人のつまずきや課題を明らかにし、通常の授業や朝学習に加え、放課後個別指導を2月末までに80回以上実施し、基礎学力の定着に務めた。次年度は指導時間をしっかりと確保するとともに、課題のある児童に対し、児童の実態に応じた指導を工夫し確実な学力向上を図っていく。
- 経験6年以下の若手教員6名については、足立スタンダードに基づく指導展開や授業方法を確実に身に付けさせるべく管理職や区教科指導専門員による授業観察や若手教員研修会等を通して繰り返し指導した。中堅・ベテラン教員も積極的に授業観察に参加するなど指導をしっかりと行っている。また、経験7年以上の教員全員も、教育実習生への公開授業、校内研究公開授業等で指導案を作成して一人3回以上模範授業を公開するとともに、区教科指導専門員の授業観察をもとにした協議会を週一回実施した。次年度も公開授業を通しての授業力向上という視点を基本に教員の育成を図っていく。
- 校内授業研究として、体育科の授業を通して児童相互の伝え合う力やコミュニケーション能力を高める指導法について研究を行った。次年度はその上に立ち、さらなる児童の言語活動の活性化と読解力の向上を目指し、特に国語の授業改善を中心に研究を進めていく。

#### 重点的な取組事項－2 心と体の充実・発展と自己肯定感の育成

- 教材・教具、指導法を工夫しながら運動量を落とさない授業を進めることができた。都運動能力調査では、全学年で都の平均値をやや下回るという結果が出た。全学年において筋力や持久力の向上が必要という結果が出たので、次年度は器械運動や陸上運動の指導を工夫しながら、向上を図っていく。
- 年間を通した体力向上の取組をすべて計画通り実施した。児童が進んで運動に取り組めるような学習内容については、今後も職員全員で研究していく必要がある。
- 行事や運動月間ごとの学校記録の更新や個人の体力カードの活用を通して、児童一人一人がめあてをもって運動に取り組もうとする意欲を高めることができた。
- 校内におけるボランティア活動（行事、挨拶隊）や教職員、SC等による相談活動により、児童一人一人が自分の良さに気付き、少しずつ自己肯定感が高まってきた。

#### 重点的な取組事項－3 小中連携の推進

- 小中連携校の公開研究会・協議会に全教員が参加し、実際の授業研究を通して連携の成果と課題を共有化することができた。連携中学校の学校公開や行事に教員が参加し、具体的な取組についてさらに理解を深めた。本校の公開授業においても全学級で各教科の授業を実施し、言語活動を中心に児童生徒の学力向上について意見交換を行い、相互理解を深めることができた。

### (4) 保護者や地域へのメッセージ

- 今年度も放課後教室を30分間、毎週1回実施した。学習内容の定着が十分でない児童に対して基礎的・基本的な内容を個別に補習をした。朝学習では主に音読、昼学習では漢字、計算問題の定着度の確認を行った。次年度は、区学力調査の分析資料、児童一人一人の学習記録（学力ポートフォリオ）をもとに、つまずきの解消に向けて指導の徹底を図っていく。家庭学習の定着にも力を入れていくので、各家庭のご協力をお願いしたい。
- 学校図書館ボランティアによる朝の読み語りや休み時間のお話会、図書室の環境整備等を例年と同じように実施していただいたことにより、児童の本に親しむ機会がより一層増えた。年間読書目標を全員が達成することを目指して各学級で取り組んできた。今後もPTAや図書ボランティアと連携して読書活動の充実を図り、豊かな心や読解力を高めていきたい。
- 毎月の生活振り返り週間、早寝・早起き・朝ごはんキャンペーン、毎月の人権指導など、児童の基本的な生活習慣の確立や思いやりの心を育てるための取組を行ってきた。今後もPTA・開かれた学校づくり協議会、関係諸機関の協力を得ながら、全教育活動を通して豊かな人間性を育てる指導を継続していく。また、縦割り班活動や子どもまつり等の異学年交流の内容をより充実させ、教育目標の「よく考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」の育成を目指していく。
- 本年度は、主に体育科の授業を通して子どもたち一人一人の伝え合う力、コミュニケーション能力を高めることを目標に、アクティブラーニングの考えを取り入れつつ校内研究を進めてきた。今後は「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を総合的に組み合わせながら、さらに子どもたちの言語能力の向上を図っていきたい。

## 2. 平成29年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

### 重点的な取組事項－1 学力向上

| 今年度の成果目標                                | 達成基準              | 実施結果                            | コメント・課題  | 達成度 |
|---|-------------------|---------------------------------|--|-----|
| 基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、区学力総合調査の目標値の通過率を上げる。 | 全校平均の通過率を70%以上とする | 国語 77.0%、算数 77.2%、全体 77.1%の通過率。 | S-P表分析、学力ポートフォリオをもとに、一人一人の児童の課題を把握し指導した結果、9月の再テストでは国語の通過率が80%を越えた。 | ○   |

| 目標実現に向けた取組み                          | 達成基準   | 具体的な方策  | 実施結果  | コメント・課題   | 達成度 |
|--------------------------------------|--|---|---|---|-----|
| 「ワークテスト」等を活用して、国語・算数の基礎学力を定着させる。     | 80点合格、全児童の9割以上の達成。   | ○全教員によるスキルタイム指導の実施。<br>○小テスト、まとめテストによる個別指導。<br>○「桜花基礎学習教室」実施。   | ○正答率80%以上の児童の割合が、10月に国語算数とも100%となった。<br>○「桜花基礎学習教室」を7回実施した。                                   | ○次年度も指導時間をしっかりと確保するとともに、つまずきのある児童に対し、学力ポートフォリオを活用し、児童の実態に応じた指導を徹底し確実な学力向上を図っていく。                            | ○   |
| 国語及び算数の単元テストの正答率・通過率を上げる。            | 8割の内容を8割以上の児童に定着させる。   | ○4月学力調査結果を分析。個人学習カルテの見直しと修正。<br>○学力向上指導計画の作成と実施。7月・10月の学力向上委員会で各学年の進捗状況を把握し、修正計画を立てる。<br>○教科指導専門員、管理職による若手教員への指導。 | ○各学年において学力調査の結果をSP表をもとに分析。<br>○問題ごとの正答率について分析し、児童一人一人に合わせた指導を実施。<br>○主幹教諭、学年OJTも活用し授業力向上を図った。 | ○児童一人一人の個人カルテをよりわかりやすいものにする必要がある。<br>○文章力(読む、書く)を更に高める指導を進めていく。<br>○低中高学年ごとのOJTをより活性化させ。日常的に若手教員の授業力向上を図る。  | ○   |
| 前学年のつまずきの解消を図り、基礎学力を定着、当該学年の定着度を上げる。 | 10月校内調査を行い比較<br>○国語・算数全校平均総合10P向上。2月に校内調査を行い測定。<br>○国語・算数の正答率80%。<br>国語・算数の通過率75%。 | ○SP表等、データの活用により定着率の低い項目や内容を洗い出す。<br>○学力向上委員会による組織的な放課後補習計画と全教員による補習指導。<br>○より個別の対応が必要な児童へそだち指導及び特別支援教室での指導を実施。    | ○間違えの多い問題を中心に繰り返し放課後学習等で指導。<br>○放課後学習指導を30回実施。<br>○そだち指導と特別支援教室の指導者が協力して指導にあたる機会を作ることができた。    | ○学年間の指導の繋がりを重視した課題づくりを進めていく。<br><br>○確実な指導体制の確立と効果的な指導法の研究を進める。<br>○そだち指導、特別支援教室と学級担任との連携をさらに強化し、指導の効果を高める。 | ○   |

## 重点的な取組事項ー2 心と体の充実・発展と自己肯定感の育成

| 今年度の成果目標                                    | 達成基準                                     | 実施結果   | コメント・課題  | 達成度 |
|---|--|--|--|-----|
| 自己肯定感が豊かな児童の育成<br>心身ともに健全で、自らの成長を実感できる児童の育成 | ○児童アンケート調査、総合85%以上。<br>○持久力強化月間への児童参加90% | ○自己肯定感調査3項目の結果は平均84%を達成。<br>○持久力自己記録も85%を達成。 | ○SSW、SCに加え、特別支援教室担当教員による課題のある児童や家庭への働きかけが効果を発揮した。さらに充実させる。 | ○   |

| 目標実現に向けた取組み                        | 達成基準   | 具体的な方策  | 実施結果  | コメント・課題  | 達成度 |
|------------------------------------|--|---|---|--|-----|
| あいさつ習慣の定着を図る。<br>人権教育の推進と特別支援教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○6年生有志によるあいさつ隊の結成</li> <li>○高齢者との交流を完全実施。</li> <li>○副籍制度を活用した交流を2回実施</li> <li>○特別支援教室の開設</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全校児童朝会で「挨拶応援隊」を表彰して、意識を高める</li> <li>○ふれあい給食への高齢者の招待。</li> <li>○特別支援学校児童の直接交流(体育、音楽、図工等)</li> <li>○情緒障がいのある児童への指導技術向上のため、区小研情緒障がい部会への参加</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○6年生児童を中心に挨拶週間の取組を設定し全児童の意識を高めた。</li> <li>○高齢者に加え、地域の方々もお招きすることができた。</li> <li>○交流は予定の回数を超えて4回実施した。</li> <li>○区小研部会だけでなく、特別支援教室ブロック会議も月一回以上開催した。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人一人が感謝の気持ちを込めて挨拶できるようにさらに指導を重ねていく。</li> <li>○交流の成果や研修会の内容を校内で共有し、特別支援教育への理解を深めるとともに人権意識の向上を図る。</li> </ul> | ○   |
| 豊かな心を育み言語活動を高める読書活動の推進             | 低学年 120冊以上<br>中学年 35冊以上(3500p)<br>高学年 30冊以上(4500p)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○図書ボランティアとの連携強化。</li> <li>○児童図書委員会の活動推進。開館時間を増やす</li> <li>○桜パレットのとの連携。パレットで使用する読書通帳の活用</li> <li>○目標達成児童への褒賞</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○達成目標は完了することができた。</li> <li>○次年度は図書ボランティアの取組も含めさらなる充実を目指す。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年、学級での指導に加え、図書支援員や図書ボランティアの取組も強化していく。</li> </ul>  | ○   |
| 年間を通じての体力づくり基本的な生活リズムの確立と定着        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○持久力向上のため、強化月間参加児童90%</li> <li>○欠席者数前年度比マイナス100人</li> <li>○生活リズム調べによる振り返り実施</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>○縄跳びは週間の設定の他、区の標準記録の更新を目指す。</li> <li>○持久走は、全国版持久走カードを用いて、強化週間の設定。</li> <li>○保健便りを通して、保健指導を行う。</li> <li>○見直し月間の設定と振り返り調査の実施。結果は担任より各家庭に連絡し、学校と家庭とが協調した指導を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○持久走カードを工夫し、強化月間参加児童90%を達成。</li> <li>○29年12月現在で欠席者数が前年度同時期より545人減少した。</li> <li>○生活リズム調べをもとに担任だけでなく特別支援教室担当教員、SCなどが家庭との連携も含め働きかけ、改善につなげた。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○都体力・運動能力調査において、すべての項目で都平均を上回ることを目標として、特に持久走の取組を強化工夫する。</li> <li>○生活習慣のさらなる改善を目指していく。</li> </ul>              | △   |

### 重点的な取組事項－3 小中連携の推進

| 今年度の成果目標                                     | 達成基準                      | 実施結果  | コメント・課題                              | 達成度           |     |
|--|---------------------------|---|--------------------------------------|---------------|-----|
| 学びが連続する環境を構築し、持続を意識した思考力・判断力・表現力の豊かな児童を育成する。 | 指導案検討や研究授業等による教員交流年間6回以上。 | ○授業参観や協議会には全職員が参加し、活発に意見交換できたが、指導案検討の時間が十分とれなかった。 | ○指導案検討の時間をしっかりと確保し、教材や指導法の共通化を図っていく。 | ○             |     |
| 目標実現に向けた取組み                                  | 達成基準                      | 具体的な方策  | 実施結果                                 | コメント・課題       | 達成度 |
| 連携授業研究会を通じての指導                               | 連携授業研究会を通じての              | ○管理職と主任教諭、主幹教諭による連携会                              | ○主幹教諭相互による連携会議が機能                    | ○新学習指導要領をふまえた | ◎   |

| 目標実現に向けた取組み      | 達成基準   | 具体的な方策   | 実施結果  | コメント・課題   | 達成度 |
|------------------|--|--|---|---|-----|
| 法の工夫。            | 指導法の工夫。  | 議を実施し、進捗状況を確認し推進する。<br>○活用力を踏まえた授業展開の手法の研究推進。<br>○指導案作成の段階から担当者間で連携をする | し、効率よく研究を進めることができた。<br>○児童生徒が考え、話し合い、発表する形の指導が少しずつ定着してきた。                       | 指導法についてさらに研究を進めていく。<br>○指導案の形式、指導の流れの共通化を進める。     |     |
| 授業・児童・生徒交流の推進    | 花畑北中英語科教員と本校外国語活動の交流を推進<br>北中生徒会と本校児童の協働によるクリーン作戦の実施 | ○花畑北中学校英語科教員によるゲストティーチング。年間2回実施<br>○本校児童が中学校生徒会主催のクリーン作戦に20名参加         | ○中学校英語科教員の授業に加え、小算数科と中数学科の教員による授業研究会を定期的の実施した。<br>○中学校の行事の関係でクリーン作戦は小学校独自で実施した。 | ○次年度はさらに交流活動を質、量ともに深化させていく。<br>○地域行事等での協働を推進していく。 | ○   |
| 小・中連携した基礎学力定着の取組 | 小学校・中学校共に前年度よりも通過率の向上                                | ○連携授業研究会を通じて、小学校、中学校それぞれの必要とされる内容について協議し、検討する。                         | ○各教科の指導で足立スタンダードをふまえた授業形式の統一を図った。   | ○英語や算数(数学)ではより一層連携が進んだ                            | ○   |

### 3. 学校活動全般について

本年度も「知・徳・体」の調和がとれた児童の育成を目指して教育活動を推進した。全児童の運動能力とともに、コミュニケーション能力の向上を目標に体育科の授業改善を通じた校内研究を進めた結果、児童一人一人の自己肯定感が高まり、お互いの良さを認め合うという場面が多くみられるようになってきた。区学力調査においては、国語では語彙や読解力の不足、算数の図形や表の理解、文章問題においてつまずきの見られる児童が目立ったので、読解力向上に特化した問題集の活用をはじめ、基礎的な計算・文章問題の練習を繰り返すとともに、一人一人の児童の課題を明らかにし、その解消に重点を置いた指導を心がけた。その結果、1月に行った区学力調査復習において、すべての学年で言語についての知識・理解・技能について向上が見られるとともに、算数では数学的な考え方の問題で顕著な伸びが見られた。全教員に足立スタンダードに基づく授業の基本を確実に身に付けさせ、丁寧に実践させることが、児童のさらなる学力や体力の向上を目指す上で必須となる。次年度は、すべての児童の幸せのために、家庭・地域との連携をより強固にしなが、信頼される学校づくりを念頭に、教職員一丸となって、児童の基礎学力の定着と一層の伸長のために尽力していきたい。